

少人数を生かした特色ある保育活動と現状

大分県本部／宇佐市職員労働組合 富永 幸

1. はじめに

宇佐市は大分県の北部に位置し、自然に恵まれた人口約5万人の地域で、平成17年に宇佐市・安心院町・院内町の1市2町の合併により、新宇佐市となった。

宇佐市の公立保育園は、旧宇佐市に2園（封戸保育園・みどり保育園）、旧院内町に2園（南院内保育園・竜東保育園）があったが、令和3年3月末に旧院内町の1園が閉園となり、現在は封戸保育園・みどり保育園・竜東保育園の3園となっている。3園は同じ保育理念と保育目標（表1）を掲げており、年間を通して3園協同での交流活動も行っている。

近年は、少子化の影響により3園ともに園児数の減少が加速し、20人を割る状況が続いており、この先も出生数の減少に伴い園児数が増えることは考えにくい状況となっている。そのような中、地域と密着した自然豊かな環境の中で、少人数保育や異年齢保育の利点を生かした保育を目指し、特色ある食育活動や、3園の交流活動を行っている。

表1

保育理念	子ども一人ひとりを大切にし、様々な家庭に寄り添った保護者支援と信頼される保育園を目指す
保育目標	自然に親しみ、心身共に豊かに遊べる子ども 自分で考えて行動できる子ども 自分のことを大切にし、友だちと過ごすことを喜べる子ども

2. 食育活動

（1）3園共通の活動内容

- ・調理員とお当番園児の一日の給食活動として、毎朝の出欠の報告、台拭きや配膳、メニューを伝える。
- ・給食とおやつの時に、メニューや食材を説明しながら言葉かけをする。
- ・毎日の朝礼や毎月の職員会議で、保育者と調理員間で情報共有し、園児一人ひとりの様子を把握する。
- ・夏野菜を植え、水やりや草むしりなどの世話をし育てたり生長を観察したりする菜園づくり。
- ・園で育てた野菜を使って年に数回クッキングを実施。
- ・季節の行事やイベントに合わせた料理を提供。
- ・食育の実践内容や食に関する情報などを保護者へ周知。

(2) 各園での取り組み

《封戸保育園》

① ねらい

- ・食を営む力の基礎を養う。

② 具体的な活動

- ・誕生日会は園児一人ひとりの誕生日当日に開催する。
- ・行事食の時には、保育者と調理師とが連携して由来などを伝える。
- ・地域の方と交流をする。
- ・地域就労施設の食品や地域の特産品を使って食育活動をする。
- ・保護者と一緒に食育を実践する。

《みどり保育園》

① ねらい

- ・様々な国の料理を食べることで、見た目や味の感想を話しながら、楽しく食事をするこ
とにより、食に関心が持てるようにする。
- ・世界の国や食文化への理解を深めながら、それらに対す興味関心を高める。

② 2025年度の具体的な活動

- ・大阪万博参加国の郷土料理や郷土菓子を毎月の給食とおやつメニューに取り入れた。

(月に10～15品)

- ・世界の食への興味関心を高めるため、できるだけ見た目も味も本場のものに近づけて作
り提供する。
- ・献立名だけではどのような料理かわからないため、月初めに献立表と一緒に料理やおや
つの写真が載ったお便りを配布し、保護者にも分かりやすいようにする。
- ・食前に世界地図の前に集まり、調理員からその日の国の名前を聞いて代表の子どもが地
図の中からその国を探し、国旗のシールと料理写真のシールを貼る。周りにいる子供や保
育者からヒントをもらいながら探していく。
- ・調理員が料理の名前と説明を行い、またその国の特徴や気候なども伝えることで、料理
だけでなくその国にも興味を持てるようにする。
- ・味の感想やその国のことを話しながら、みんなで楽しく給食の時間を過ごす。

《竜東保育園》

① ねらい

- ・毎月19日を「食育の日」とし、調理員が食に関するお話をすることで、園児との信頼
関係を深める。
- ・参加型にするなど楽しい内容のお話しを通して、食に関する興味関心を高める。
- ・調理員が食育の話をするすることで、自らの経験値や食育スキルを向上させる。

② 具体的な活動

(ア)未満児

- ・食材を選んで食べよう！：「はてなボックス」を使って、手の感触だけで野菜や果物を当てる。
- ・箸使いを身につける：1歳児はスプーンで動物の口に玉を入れる遊び、2歳児は柔らかい玉を専用の箸でつかんで入れる練習をする。
- ・バランスの良い食事：食材の絵を分割したパズルの中から、食材の絵を完成させ名前を言う遊びをする。

(イ)以上児

- ・食材を使って食べ物に興味を持とう！：三色食品群のボードの使用、水槽を使った野菜の浮き沈みの観察。
- ・箸使いを身につける：豆つかみゲームをし、60秒で何個つかめるかを競う。
- ・食事のバランス：「三色食品群」のおさらいをし、食材をバランスよく選ぶビンゴゲームをする。

3. 3園合同の保育活動

年間を通して、3園が一緒に活動する行事がある。市内で開催される『幼児音楽祭』に2013年から参加するようになり、交流が始まった。現在ほどの園も少人数になっていることから、交流を持つことでたくさんのお友だちと触れ合うことができ、世界も広がるのではないかという思いで、以前は園ごとに行っていた海遊びへ日にちを合わせて行ったり、ラグビー協会開催のラグビー教室と一緒に参加したりしている。

(1) 幼児音楽祭

①ねらい

- ・音楽活動を通じて、他2園との交流や、共通の目的を持って一緒に活動する楽しさを味わう。
- ・大きな舞台に立つ喜びや緊張感、達成感を味わう経験を積んだり、自園の友だちだけでなく、周りに歩調を合わせたりする協調性を培ったりする。

②活動内容

- ・3園で演目を決め各園で練習をして3回安心院文化会館で合同練習を行い、本番（ウサノピア）に出演をする。
- ・リズムやオペレッタの表現活動。子ども同士、お互いの良さに気づき協力し合う。
- ・友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。

③成果と課題

- ・発表経験を通して自信につながった。また、友だち(他園)と一緒に一つの発表を作り上げる中で、充実感や達成感を味わい、集団意識が芽生えた。
- ・毎年、演目について担当者が話し合いを重ねてはいるが、年々小人数化しており、発表内容に工夫が必要となっている。
- ・何度も打ち合わせをしてはいるが各園それぞれでの練習になるため3園で合わせた時にズレが生じてしまうところがある。

- ・季節の良い時期に園外活動など、自然と触れ合う保育時間が取りづらくなる。

(2)海遊び

①ねらい

- ・身近にない海へ行き、図鑑や映像ではなく実際に見たり触れたりしてあそぶ体験や経験をすることで、興味や関心を持つ。
- ・他園の友だちと出会い、友だちに親しみを感ずる。
- ・公共の場でのルールを知り、守ろうとする。

②活動内容

- ・海に出かけ、波の様子や海の広さ（自然の大きさ）を感じる。
- ・海での遊び方を知り、浜辺の生き物(やどかりや、カニなど)を探し見つけたり、捕まえてりしてあそぶ。また、生き物への接し方や命の大切さに気づく。
- ・帰りには、生き物を海に返し貝殻などを各自のケースに入れ持ち帰る。
- ・持ち帰った自分の貝殻を使って思い出の作品作りを楽しむ。

③成果と課題

- ・なかなか行く機会の少ない海へ出かける事を、とても楽しみにしている。
- ・浜辺の生き物との触れ合いを通じて観察、名称、生態を実体験でき子どもたちはとても喜ぶ。
- ・潮の満ち引きで予定日が決まり天候によって行けなくなることがある。
- ・海や生き物に夢中になり他園の友だちとの交流になりにくい。

(3)ラグビー教室

①ねらい

- ・広大なグラウンドで四肢を使い、様々な運動や競技がある事を知り、身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・指導者の話を聞き、友だちとルールを守って運動あそびを楽しみながら他園の友だちとの交流を深める。

②活動内容

- ・専門の指導者の話をよく聞き、ボールの扱い方やルールを知る。
- ・実際にボールを使って身体を動かし、しっぽ取りやボール送りなどのゲームに3園混合のチームで参加する。
- ・ルールを守って友だちと一緒にゲーム遊びを楽しむ。

③成果と課題

- ・園外の方の指導でまた違った子どもの様子が見られる。
- ・ラグビーならではのルールや経験を通して、友だちと協力する大切さや相手を思いやる気持ちが育まれる。
- ・年々、子どもの体力低下や話の聞き取りの難しい所が見られるようになってきている。

各園の園児数が少なく一緒に遊ぶお友だちが限られるため、このような交流活動を持つことで、たくさんのお友だちと遊ぶ楽しさや普段はできない遊びや活動を体験することができ、見える世界が広がり経験値も上がると考えられる。また新しい友だちとの出会いによる刺激で、新しい自分に気づいたりコミュニケーション能力が向上したりする事も期待できる。

4. 3園の置かれている現状と職員の思い

・在園児が減少し、定員の4割強、少ない園では2.5割弱しかいない。また、近年の宇佐市の出生数も大幅に減少しており、入園数増加も期待できない。そのため、公立3園の合理化が検討されており、在り方検討委員会(・副市長・総務部長・福祉保健部長・総務課長・行財政経営課長・子育て支援課長・封戸保育園長・みどり保育園長・竜東保育園長)が立ち上げられている。管理職だけで話が進められていくのではないかとという心配もあったが、3園の園長が現場の保育士の意見も知っておき会議に臨みたいということで、保育士の意見を聞く場を設けてくれた。その時に出了意見や思いが下記である。

- ・宇佐市全体の出生数自体が下がっているため、これからの園児増加はどの園も厳しくなることは承知だが、1園だけは公立保育園として残してほしい。
- ・現在、支援の必要のある家庭が子育て支援課からの紹介で急遽入所してくるケースが増えているため、すぐに対応し市の関係課と連携を取りやすい公立園は必要だと思う。
- ・3園それぞれが宇佐市の端々に位置しているため、統廃合されても通ってくる園児はいるのか心配。
- ・3園の園者が、それぞれ築50年程で老朽化しているためどの園舎を使うのかも問題。
- ・宇佐市では休日保育が行われていない。今は職員の人数の確保もできるため、公立の保育園が率先して行えば、公立としての役割も見出せるのではないかと。
- ・休日保育を始めても、園を存続できるほどの利用者があるのか、どのくらいの需要があるのか不明。
- ・本庁の一角に、窓口利用の市民の連れている子どもを預かる施設を併設した保育園を設けてはどうだろうか。(財政難のため難しい)
- ・市役所に一般事務としていくことになっても、保育しかしたことがないので仕事ができるのかも心配。

園ごとでも思いは違い、個人でももちろん違う。その中でも、全員の意見が一致しているのが『1園だけは残してほしい』ということ。宇佐市から公立保育園がなくなるということは、緊急入所できる場所が無くなるということ。支援の必要な子どもや保護者の行く場所が減ってしまうということになるのではないだろうか。

5. おわりに

公立保育園の合理化については、以前も持ち上がっており検討会が進められていたが、当時の市長の「公立保育園の統廃合はしません」という判断で話はなくなった。市長が代わり小学校も統廃合が進められているため、保育園も免れない状況である。今後どのように変わっていくのかまだ分

からないが、在園児や職員に不利益の無いよう、各課と連携しより良い改革になればと願っている。